

本を選ぶ

NO. 351 2014年(平成 26年) 8月 20日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

〒335-0004 埼玉県蕨市中央 5-20-1 TEL=048-432-3726

●<くろん・ぼわん>図書館員のステップ

●司書の眼 第17回

●帰ってきた図書館員(32)

●アイデアと行動力にチームワークの妙をプラスすると…

●ドイル書誌調査余談(80)



図書館員のステップ

昨年、お子さんのいる友人から、「絵本だけど面白いから読んでみて」と、絵本を頂きました。いせひでこ作・絵の『ルリユールおじさん』という絵本です。パリの路地裏にある製本職人と少女とのふれ合いを描いた絵本なので、図書館の方ならご存知の方も多いかと思います。

大切にしていた植物図鑑が壊れてしまった少女と、丁寧な工程で図鑑を復元する職人のやりとりが描かれ、様々な工程を経て図鑑は新しく生まれ変わる、という内容です。図書館員としては、同じ図書を扱う職種として製本の工程が細かく描かれていることはもちろん、最後の「そして私は、植物学の研究者になった」という結末にジーンとくるのですが、一方で現実に自分の行っている仕事の内容を振り返ってみると、「はて」という気分にもなりました。

私は大学図書館に十数年勤務し、現在は専門図書館におります。最近の仕事の内容を思い浮かべると、事業の企画であったり、他機関の方との連絡調整であったりと、「図書館員」と言われて思い浮かべられるような図書や雑誌を手にとって一人黙々と作業する機会は、あまりありません。仕事として製本を扱ったことはありますが、実際に自分で図書や雑誌を修理するという経験は、新人の頃に図書の簡単な修理を行った他はほとんどありません。

もっとも、図書の修理と言っても、簡単なもの

から高度なものまでであるため、古書などを扱う時に発生する、テクニックを要する高度な修理は、『ルリユールおじさん』のような専門の業者の方にお問い合わせする必要があります。その結果、簡単な修理は新人が、高度な修理は業者の方が行っており、新人を卒業する頃には図書の修理も卒業し、次のステップへ、という流れでした。

図書館員としてステップアップするに連れて、現在の私の仕事は、資料に直接携わるよりも、仕事をどう切り分け割り振るのかを考えたり、新人を育てて仕事を教える、というマネジメントの部分が大きくなっています。『ルリユールおじさん』に描かれる職人の世界は、今の私が読むと、こういう仕事に浸れたらいいな、という、図書館員のノスタルジックな夢でもあるように感じます。

ちょうどこの4月から、私の職場にも卒業したばかりの新人がやってきました。社会人一年生でもあるため、彼女に社会人としてのマナーから、仕事の進め方まで、一つ一つ教えているところで、糊と刷毛を渡して図書の修理も経験してもらっています。

今、自分が新人の頃に図書を1冊ずつ糊と刷毛で修理したことを思い返すと、懐かしい気持ちになります。自分ではまだ若い気分でしたが、彼女に糊と刷毛を渡した時、自分で思う以上に年月が経っていることに、自分でも呆然としました。

同じ『ルリユールおじさん』を読んで、彼女と私とで感想がどのように違うのか、十年後に彼女がどう感じるようになっているのか、今後が楽しみです。

(匂坂 佳代子；国立女性教育会館)